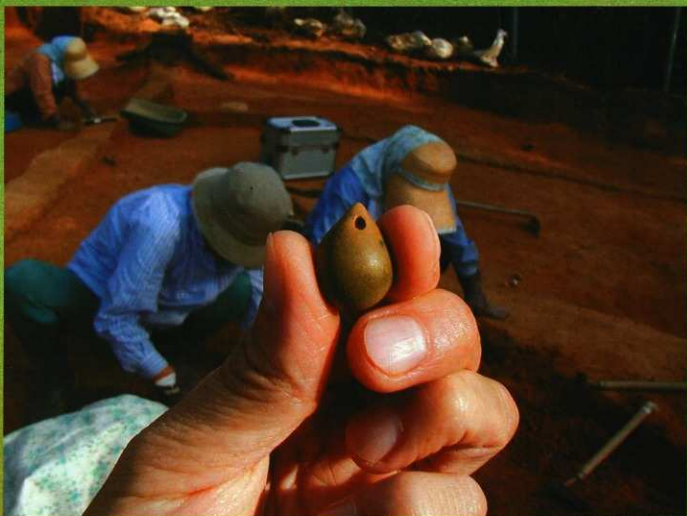


はっくつ 2002

栗東市話題の発掘調査

十里遺跡・高野遺跡・新開西古墳群



▲新開西古墳群出土の露玉(つゆだま)

栗東市教育委員会・(財)栗東市文化体育振興事業団

弥生から古墳時代の土坑群

十里遺跡

十里遺跡は、栗東市のもっとも北西端に存在する遺跡で、中小河川である中ノ井川の右岸に広がる遺跡です。

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の河川、土坑群、溝などが確認されました。注目すべきものとしては、炭を敷き詰めた200基以上におよぶ土坑があります。土坑群が確認された範囲は、河川に沿って南北方向に約20m強、東西方向は、東へ約600m先でも土坑群が確認されていることから、約700m以上にわたって土坑が存在していた可能性があり、推定1000基以上になることが予想されます。

土坑群の性格としては、粘土採掘坑、貯蔵穴、土坑墓などの説がありますが、現段階では土坑の埋土状況、配置や立地などから考えると土坑墓説が有力です。(近 藤)

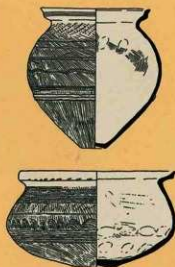
▶土坑出土鉢



▲調査地(上空より)



▲土坑群(右上は河川)



▲土坑出土土器



▲北側調査区全景

古墳時代の大集落 たかの 高野遺跡

高野遺跡は野洲川左岸に位置する、古墳時代の大集落として知られています。2002年度には、遺跡の北半部において、保育園建て替えに伴い発掘調査が実施されました。

発見されたものは、竪穴住居9棟・掘立柱建物6棟・土坑・溝などです。竪穴住居のうち8棟は古墳時代前半期のもので、おおむね2期のムラのようなことが確認できました。これらの住居やこれに伴う土坑・柱穴からは9点の鉄製品が出土しており、注目されます。ほかの1棟はカマドをもつ住居で、高野遺跡では出土数の少ない古墳時代後期のものです。

掘立柱建物のうち5棟は古墳時代前期のもの、東端部で発見された条里方向の建物1棟は鎌倉時代のものです。

今回の調査では、古墳時代が始まった頃の高野遺跡の様子や、当時の住居の構造などを知るうえで貴重な資料が得られました。(雨 森)



▲竪穴住居



▲竪穴住居出土土器 S=1/3

飛鳥人が眠る棺 ひつぎ

新開西古墳群 しんかいにし



3号墳

琵琶湖南部の平野を望む安養寺山の麓で発見された新開西古墳群は、7世紀初め頃から中頃に築かれた古墳群です。今回4基の古墳が発掘調査されました。

方墳の3号墳では、幅70cmの小規模な石室に全国的にも発見例の少ない須恵器製の棺(須恵質有蓋長胴棺)が収められていました。棺の大きさは長さ110cm、幅52cmです。作りはていねいで、蓋の脱落を防ぐため、受け部の鐙が受け口状につくられ、さらに紐を掛けるための耳が4ヶ所に付けられています。その他の副葬品として金銅製の耳環2個と須恵器の杯が出土しました。また、古墳の周溝からは10世紀(平安時代)の土器や緑色の釉薬で彩られた美しい露玉が出土しています。(佐 伯)



はっくつ2002 ~ 桑東市話題の発掘調査 ~

発行日 2003年3月31日
編集・発行 (財) 桑東市文化体育振興事業団 文化財センター
〒520-3011 滋賀県桑東市下戸山47番地
桑東市出土文化財センター内
TEL 077-553-3359
FAX 077-553-3514

印刷・製本 (株) スマイ印刷工業